

経済観測

2012.10.10

消費量が40年前の3分の1に減った日本酒だが、東日本大震災の復興支援で東北地方の地酒が飲まれ、11年度は16年ぶりに消費量がプラスに転じた。日本食ブームで輸出量も過去最高を記録。11年の輸出量は約1・4万キログラム。生産量(約60万キログラム)の2割強だ。

ワインに学ぶ日本酒輸出拡大のヒント

農業ジャーナリスト 青山 浩子



が、同国で飲まれる日本酒の半分以上が「海外産日本酒」といわれる。「国産日本酒」の輸出拡大には、国産の魅力を伝えるなど工夫が必要だ。

フランスはワインの消費量が50年前の3分の1に減った。しかし、輸出に支えられ年間400万〜500万キログラムの生産量を維持し、輸出額は7000億円超(11年)で世界1位。ワインの味

は産地の気候風土、土壌、ブドウの品種などによって決まる。それぞれの違い、個性をソムリエが豊かな表現で説明し、料理との組み合わせまで提案してくれる。そんな文化がフランスワインのブランドを支えている。

約1600社ある日本酒メーカーの売上高は約4300億円。小売り段階ではもっと膨らみ、小さな市場ではない。国産日本酒の輸出拡大に期待したい。それが酒米の需要増加、水田の有効利用につながる。